とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R6.11.11～12.13
クラス名（年齢）	たんぽぽ組（0歳児）
年間テーマ	水

1.活動テーマ

＜テーマ＞

クリスマス音楽会 『ひょうたん池でジャブザブストン！？何の音！？』

＜テーマの設定理由（子どもの姿）＞

運動会の遊びから池の遊びを広げてきたたんぽぽ組。もっとも～っと池の中で遊んでみよう！おたまじゃくしからカエルになった後はどんな友だちと遊んでいるのかな？どんな事しているかな？子どもに問いながら遊びます。

2.活動スケジュール

R6．11．11～　カエルさんのともだちだ～れ？いないいないばあっ！

R6．11．18～カメさんのまねっこ楽しいね！身体をいっぱい動かそう！

R6．11．25～音を聞く前に先に身体が動いちゃう！？何でも知ってるよ～

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

画用紙　ビニール袋　帽子（ミドリガメ、リクガメ）　不織布の葉っぱ

段ボールの仕切り　水草　発砲スチロール（廃材）　水のタンブリン

4.探究活動の実践

＜活動内容＞

池の中、水辺にいる生き物のまねっこ遊びをしながら子どもたちの好きな動きや、興味の先を探る。段ボールの仕切りを使ってくぐったり、のぞいたり子どもの動きから遊びを広げていく。大物以外に小物を“ひっぱる”“押す”“つかむ”遊びも楽しみ、水草や泳ぐ仕草に見立てて遊んだ。

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

子どもの言葉・姿	写真
R6.11.11　部屋の柵越しにチョロンと出てる紐を見つけたよ！なんだろう…そーっとそーっと先生や友達に気付かれないようにひっぱちゃおう！（チラチラ視線を周囲に配るY君）ツルがのびて芋がでてきた！（次々友だちも来て「ん～っしょ」と声を出して柵の間から太っちょお芋を出そうと頑張るNちゃん、Rちゃん。） R6.11.16　（シートを付けたボードに乗ると）泳いでるみたいで楽しいね！二人で座ってギュウギュウになって乗ってみたけどあれ？全然動かない…お～いカメさん！先生ひっぱって！（保育士に手を伸ばして訴えるk君、）わたしハイハイで行こ～っと。（涼しい顔でボードを降りて進んでいくAちゃん。K君少し寂しそう…） R6.12.2 「いこ～！」片手をあげて、ぬいぐるみをボードの上に乗せて泳がせちゃおう！あれ？ハンカチもかけて寝かしつけまでしてあげるの？（自分のお腹にもかけだすT君）	

5.振り返り（振り返りによって得た保育者の気づき）

子どもたちが自分で気づいた遊びは友だちに知らせて、一緒に楽しみたい子とまわりをチラチラ見ながらこっそり楽しみたい子といる事が分かった。こっそり楽しみたい子も友達が来た事によって“自分だけのもの”取り返そうと一瞬するが、一緒に運んだりひっぱったり次の遊びや楽しみを見つけて切り替えている。表現遊びを全体で楽しんだ後、部屋のコーナー遊びの中にもボードを置いておくと自分なりに遊びを再現したり楽しんでいた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R611.19～12.13
クラス名（年齢）	すみれぐみ（1歳児）
年間テーマ	水

1.活動テーマ

＜テーマ＞

クリスマス音楽会 『うみのなかをたんけん…あっあのしま もしかして…クジラ！？』

＜テーマの設定理由（子どもの姿）＞

子ども達が興味を持っている生き物と水の絵本。ストーリーの中に大好きな日頃の遊びを取り入れる。流れの中で音の変化を感じ、生き物の表現を楽しみ話の展開に心を寄せる。

2.活動スケジュール

R6.11.19～　音遊び、動物表現

R6.11.26～　浮き輪で遊ぼう

R6.12.3～　　島⁉　クジラさん⁉

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

牛乳パック（ベンチ）、段ボール（浮き輪、びん、クジラ）、模造紙（手紙）、フープの浮き輪、貝の手作りマラカス、カラーポリ（海）

4.探究活動の実践

＜活動内容＞

生き物の表現、そして、真似っこ遊び。大きい波、小さい波、身体をどんな風に使ったらくぐれるのだろうか。友達と一緒に遊びたい。その方法は？低月齢児、高月齢児、メンバーを考えながら組み合わせ、相手の心を伝えるピアノの音を聞き、身振りをしたり、音の長さを考える。

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

子どもの言葉・姿	写真
砂山トンネルくぐれるかなあ。どのトンネルにしようかな。おっきいトンネルは、歩いてとおれるよ！小さいトンネルは、どうやってくぐる？ぼくも後ろから続きま～す。 ♪て～をつなごう～　友だちといっしょ楽しいね！みんなつながったよ！いっしょにクルクル！いっしょにユラユラ！いっしょにジャ～ンプ！あ～おもしろい。 春から遊んでいた遊び。手をつなぐ事も楽しいが息をピッタリと合わせることは何よりも楽しい。クリスマス会が終わっても継続する。 そうじと言ったら、ぞうきん！たなをゴシゴシ。じゅうたんもゴシゴシ。こうやってこすったらきれいになるのかな。お！そっちはどう？いいね、いいね～。	

5.振り返り（振り返りによって得た保育者の気づき）

保育士と関わることから友達と関わることへと興味を向けてきたこの時期、友達の手を離さず息がぴったり合ったとき、一緒に何かを達成することに喜びを感じていた。また、日頃歌っていた歌を使ったことで子どもたちから自然と歌詞が聞かれたり音に親しむ。何よりも登場した動物への愛着が大きく、表現を楽しみながらも「ねずみさん」と口ずさみお面を一日中付けては、気持ちを寄せていく。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R6.11.13～12.13
クラス名（年齢）	ちゅうりっぷ組（2歳児）
年間テーマ	水

1.活動テーマ

＜テーマ＞

クリスマス音楽会 『え～ッ　かわっちゃったの？ちょーっとまっててね、ちょっきん』

＜テーマの設定理由（子どもの姿）＞

運動会の遊びから馴染みのある生き物で、卵からカエルになる過程を遊びの中で知り、なりきって楽しむ。卵からおたまじゃくしそしてカエルと色々な過程を音楽や洋服づくりやを通して知っていく子どもたち。

2.活動スケジュール

R6.11～　卵探しの散歩に行く

R6.12～　カニの洋服屋さんごっこ遊びを楽しむ

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

不織布、段ボール、布、画用紙、

4.探究活動の実践

＜活動内容＞

卵探しを通して卵になりきって遊ぶ。そこからおたまじゃくしが生まれ、カエルになる過程を洋服を通して伝えていく。おたまじゃくしさんに作ったけど足、手、しっぽが取れたりとカニの洋服屋さんも「どうしよう？」と考えたりと洋服の作り方も伝えていく。

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

子どもの言葉・姿	写真
R6.11.13　散歩で卵探しに行く 「なんの卵だろう？」「恐竜！」卵になりきって表現遊びを楽しむ。「今日は何か楽しいことするかな～？」「卵探ししたいな～」などと卵の関心が高まる。 おたまじゃくしになると足が出て、手が出て、しっぽが出てきたよとイラストや動きでセリフを覚えていく。 R6.12.13 カニの洋服屋さん 「いらっしゃいませ～！」というセリフから、コーナー遊びでもごっこ遊びが広がる。アイス屋さんやご飯屋さんなど店員と客で会話を交わし「ちょっと待ってねー」と劇中のセリフを使っていた。他のコーナー遊びでもセリフや歌を使って遊ぶ姿が見られる。 パズルで楽しむS君。「これ難しいよ～」と話したあと劇中歌の「♪こまったな～こまったな～作り方がわからない」と全て歌う。クリスマス音楽会が終わってからも劇で使った黄緑色の布を布団にしたり友達の頭のサイズを測ったりし遊ぶ。	

5.振り返り（振り返りによって得た保育者の気づき）

卵探しからおたまじゃくしになりどんどん遊びを広げていく中で、歌やセリフを一緒に入れていくと子どもたちに自然と入っていくのが分かった。洋服屋さんから色々なお店の店員になることでだんだんとお客さんとのやり取りもうまくなっていた。洋服屋さんの遊びを通して洋服作りのことを沢山理解し、それをごっこ遊びにつなげサイズを測ったり、布団にしたりミシンで縫ってみたりと色々な方法で作っていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R6.11.18～12.13
クラス名（年齢）	もも組(3歳児)
年間テーマ	水

1.活動テーマ

＜テーマ＞

クリスマス音楽会 『かじっても うえても はこんでも とばされちゃう こまったな～』

＜テーマの設定理由（子どもの姿）＞

テーマの”水”にはどんな生き物がいるかを
考え、その動物の生き方、動きを考えながら
表現を通じて理解を深めていた。

2.活動スケジュール

R6.11.18 ビーバーがやってきた
R6.11.19～R6.12.12 劇あそび
R6.12.13 クリスマス音楽会

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

画用紙、新聞紙等。散歩で見た紅葉の製作
を壁面に貼る。

4.探究活動の実践

＜活動内容＞

湖には、様々な生き物がいること、困っている
姿にどう寄り添ったら良いか考えながら、表現
を通じて、友だちと協力する大切さを学んだ。
言葉遊びにより、語彙数が増えた。

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

子どもの言葉・姿	写真
R6.11.18 保育士がビーバーのお面を被り、 登場すると、「え！？誰！？」と興味津々。 好きな食べ物が、枝だと知り、「お腹空いた」 というビーバーくんに、部屋中を探しながら、 「これ、木だからどうぞ！」「これも！」と、 次々に、木で出来た玩具などを渡していた。 「これも木だよ！」と、以前製作した紅葉の木を 指差し、「どうぞ！」とあげていた。 R6.11.20 湖のカルガモが遊びにきて、 困っているビーバーとリスに対して、 「どうやったら、元気がない植えた木が元気に なるかな？」に対し 「水あげる！」 「でも、道具がないな」 「こうやってすくう！」 と、手を使って床(湖)をすくい、木にあげていた。	

5.振り返り（振り返りによって得た保育者の気づき）

動き、言葉を保育士が全て決めて表現するよりも、「どうしたらいいかな？」と
問いかけながら、子供たちからの新しい発想や、動きが取り入れられ、子ども達も
自分が考えた言葉のため、物語の世界にすっと入っていた。水を通じて、海以外に
も大きな湖があることを知り、「もっと知りたい！」という気持ちを大切にしながら
世界に一つの物語が出来て、保育士自身も楽しむことができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R6.11.18～12.13
クラス名（年齢）	さくら組（4歳児）
年間テーマ	水

1.活動テーマ

＜テーマ＞

クリスマス音楽会 『カンカン　カチカチ　われないよう…どうしよう？』

＜テーマの設定理由（子どもの姿）＞

今年のテーマの”水”。運動会では海の中の生き物を表現し、みんなが生活している町も”水が必要”だと知った。そこで日常に欠かせない水が「凍ったら？」「雨が降らなかったら？」を一緒に探求していく。

2.活動スケジュール

R6.11.18～11.22　みんなのところに町の生き物がやってきた！

R6.11.25～11.29　水の変化を知り、水が使えなかったらどうする…？

R6.12.2～12.13　みんなでどうしたらいいか考えよう！

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

かっぱの紹介の紙・緑軍手（かっぱ）・カラーポリ（小鳥の羽）・鈴（光の精）

マラカス・しっぽ（さる）・麺棒・段ボール・帽子・大型積み木

4.探究活動の実践

＜活動内容＞

日常生活に欠かせない水。飲み水やお風呂、料理など様々なものに使われるが、時に自然災害にもなりうる。寒い冬の日、池の水が凍ってしまって水が飲めない…。どうしたらいいかを、クラスで考えアイデアを出し合う。アイデアをどう形にしていくかを考えて物語を創りあげた。

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

子どもの言葉・姿	写真
R6.11.18　みんなの部屋に町の生き物がやってきた カッパなどの生き物（保育士）を見つけると「あ！あそびにきた！一緒に遊ぼう！」と元気な声が響く。 リズム遊びをしていると、池を見つけみんなで飲もうとするが飲めず…「太陽の光を集めればいいんじゃない？」とアイデアが出た。 枯れている花を見つけるとすぐに「水をあげよう！」と言う声が聞こえた。みんなであげるには…「順番に」と並んでリズムにあわせてあげていた。 R6.12.10～　なりたい役になって遊ぼう！ 自分たちで選んだ役になりきり遊ぶ毎日。セリフを覚え、困っている時には優しく声を掛け互いに教え合う姿が増えてきた。歌もリードする子がいてそれを見て真似をすることも多くなり、自然と協力するようになる。それぞれ生き物の仕草など、身体の表現や小道具を活用し、鏡の前に立ち楽しむ。	

5.振り返り（振り返りによって得た保育者の気づき）

水が凍ると何になる？氷はどうしたら溶けるかな？と、質問を子どもたちに投げかけた時は少し難しいかと感じていた。しかし、子どもたちからのアイデアがたくさんでてきて、生き生きと遊びを楽しむ姿に一緒になって探求する事ができた。「温めたらい！」と日頃の遊びからの発見や、寒い時期に行う行事だからこそ、遊び以外のときにも発見をしみんなで共有をし、表現活動に繋がっていった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R6.1120.～12.13
クラス名（年齢）	ひまわり組（5歳児）
年間テーマ	水

1.活動テーマ

＜テーマ＞

クリスマス音楽会 『みずってふしぎ！みずってすごい！みずがなくなったら…？』

＜テーマの設定理由（子どもの姿）＞

地球をめぐる命の輪を知り、それは生きるために欠かせない水と密接につながっていることを、“みずたくん”の絵話からふくらませる。水がつなぐ命の物語を、5歳児らしい心で捉えて表現していく。

2.活動スケジュール

R6.11.20～11.27　ひまわり会議「水といのちのつながり」

R6.11.28～12.13　歌とセリフで表現しよう

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ピアノ、歌、ボール、ネット、積み木等

4.探究活動の実践

＜活動内容＞

この日は親しんできたオリジナルの絵話「みずたくんのたび」の新しいものを読み聞かせ。地球のいのちを水の力で助けていくみずたくん。でもサケのおかあさんは産卵のあとに死んでしまった。そんな話をしながら、水と命がつながっている理由を「ひまわり会議」で話し合った。

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

子どもの言葉・姿	写真
R7.11.25　つながるいのち 「ひまわり会議です！」「よろしくお願いします！」 元気に始まったひまわり会議。お話の中に出てきたいろんな地球の生き物が“みずたくん”を知っていることに対して「どうしてみんな、みずたくんのことを知っているの？」と素朴な疑問が。みずたくんとはどこで会ったんだろう…？「だってさ、水はいろんな人と友だちだから」「サケのお母さんも、そのお母さんのお腹の中でみずたくんに会っていたんだよ」 深い気付きにみんなびっくり、そして盛り上がる会議。 確かに、お腹の中で水に守られて育つということはみんな、もう知っているからね。「水が守ってくれるから、みんな赤ちゃんの頃には、みずたくんに会っているんだよ」なるほど。一気に水への親近感がわいてくる。「水がないと、ぜんぶのいのちが育たないんだね」「水ってすごい」気づきにあふれたひまわり会議だった。	

5.振り返り（振り返りによって得た保育者の気づき）

“みずたくん”というキャラクターになっているからこそ、繋がりというものを親しみをもって捉えていた。身体の中の水もすべて“みずたくん”、だから涙も、胎内の羊水も、すべてが繋がっていることを子どもらしいまなざして見つめていた。また別のグループは「地球の命はいつどこから生まれてきたのか？」という話し合いに発展させ話し合いの中で思考も糸をたぐるようにどんどん繋がり、気づきになることを知った。